

大学における障害学生受け入れの現状 ～2020調査より受験編～

殿岡 翼 殿岡 栄子

・全国障害学生支援センターでは2020年7月から12月まで「大学における障害学生の受け入れ状況に関する調査2020」を実施しました。以下、本調査または2020調査と略します。今回は本調査結果より、障害学生の在籍状況・受験状況を中心に掲載します。

・直近3回の調査実施状況です。

略称	正式名称	開始日	終了日	掲載書籍
2021調査 次回調査	大学における障害学生の受け入れ状況に関する調査2021	2021年5月 予定	2021年10月 予定	2021年冬に発行予定
2020調査 本調査	大学における障害学生の受け入れ状況に関する調査2020	2020年7月	2020年12月	大学案内2021障害者版
2019調査 前回調査	大学における障害学生の受け入れ状況に関する調査2019	2019年5月	2019年9月	大学案内2020障害者版

1 調査回答状況について

・2年連続となる2020調査の結果、調査対象大学 811 校（大学 801 校・大学校 10 校）に対し、回答数は372校で、回答率は 46%でした。過去12回実施してきた調査の中で2番目に低い回答率で、半数に満たない状況でした。ここ数年かけて当センターでは毎年連続して調査が実施できるよう、体制の整備に取り組んでいます。2021年度も継続して、調査が予定されております。今後も継続した調査・出版・情報提供の実施に向けて取り組んでまいります。

・今回は回答大学が 21校減少し、回答率も3ポイント下がりました。

※回答率とは、ある項目の回答数を回答大学数で割った数（率・%）です。

※前回比とは、前回と今回の回答率の差（ポイント・pt）です。

※表中の▲は「マイナス」の意味です。

・本調査は大学の総意としての回答を求めており、途中まで回答しても大学の総意（決裁）がとれず、最終的に回答に至らなかった大学もあります。このような大学や学生募集停止となった大学は、回答数には含まれておりません。

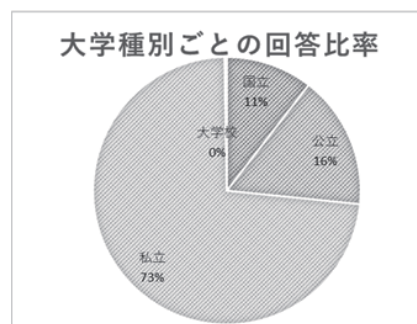
◆大学種別ごとの回答状況

・大学種別ごとでは前回調査と同様に公立大学の回答率ももっとも高く、64%でした。

・国公立の回答率が減少したのは残念です。

種別	調査対象数	回答数	回答率%	前回比
大学①	801	371	46%	▲3pt
国立	86	39	45%	▲8pt
公立	94	60	64%	▲6pt
私立	621	272	44%	▲2pt
大学校②	10	1	10%	0pt
合計(①+②)	811	372	46%	▲3pt

参考：前回調査（2019調査） 調査対象数（802） 回答数（393）
回答率（49%）

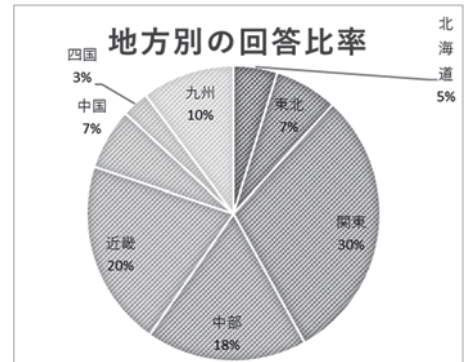


この文章で紹介しているデータのほとんどの項目は、**大学案内障害者版 Web情報サービス**にて公開しています。**大学案内障害者版 Web情報サービス**を利用すると、各項目にどこの大学が回答しているか分かります。お申し込みは、<https://www.nscsd.jp/Activities/Johoteikyo/> まで。

◆地方別の回答状況

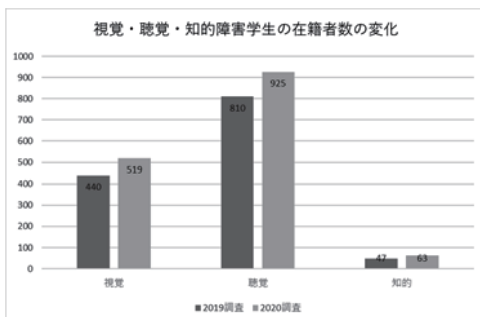
- ・地方別では、四国を筆頭に、東北、近畿から高い回答率をいただきました。
- ・ただし全体的に、前回調査よりも回答率は下がっています。

地方	調査数	回答数	回答率%	前回比
北海道	37	18	49%	▲10pt
東北	51	26	51%	▲2pt
関東	274	112	41%	▲3pt
中部	139	66	47%	▲3pt
近畿	159	76	48%	▲1pt
中国	53	25	47%	▲2pt
四国	18	11	61%	▲4pt
九州沖縄	80	38	48%	▲3pt



2 在籍状況について

- ・障害学生の在籍がある大学は280校に達し、回答数の75%におよびました。また前回調査に引き続き在籍者の総数が1万人を超えました。また、障害学生が在籍する一大学あたりの障害学生の数、平均38.1人であり、前回調査の36.4人よりも若干増えています。
- ・在籍する大学数の前回比では、障害別の大きな分類（表の網掛け部分）で見ると、「重複障害」が5ポイント「精神障害」が3ポイント増えました。「合計」ではほぼ横ばいでした。また細かい障害分類では「発達障害の重複」「その他の発達障害」がそれぞれ5ポイント、「その他の精神障害」が3ポイント増えています。



- ・在籍者数を前回調査と比較してみると、「視覚障害」が79人、「聴覚障害」が115人、「盲ろう」が5人、「知的障害」が16人増えています。この増加は評価できる点です。
- ・特に「盲ろう」の学生が4大学で9人、「知的障害」の学生が21大学で63人在籍しており、社会的にみてもこれらの障害学生の存在がもはや特別なことではないと言えるでしょう。

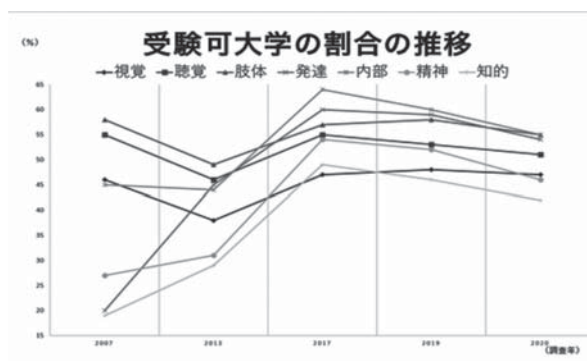
障害種別	大学(校)	率	前回比	人数(人)	平均(人)
全盲	22	6%	0pt	76	3.5
弱視	100	27%	1pt	443	4.4
視覚障害	107	29%	2pt	519	4.9
全ろう	34	9%	1pt	111	3.3
難聴	176	47%	0pt	814	4.6
聴覚障害	180	48%	▲1pt	925	5.1
盲ろう	4	1%	1pt	9	2.3
電動車いす使用	77	21%	▲2pt	155	2.0
手動車いす使用	73	20%	1pt	225	3.1
上下肢	89	24%	2pt	209	2.3
下肢	94	25%	▲2pt	214	2.3
上肢	57	15%	0pt	110	1.9
肢体障害	182	49%	0pt	913	5.0
内部	168	45%	▲1pt	1751	10.4
SLD	47	13%	1pt	84	1.8
ADHD	148	40%	▲1pt	642	4.3
ASD	176	47%	▲1pt	1230	7.0
発達障害の重複	103	28%	5pt	364	3.5
その他の発達障害	102	27%	5pt	445	4.4
発達障害	220	59%	1pt	2765	12.6
高次脳機能障害	32	9%	1pt	43	1.3
その他の精神障害	195	52%	3pt	2558	13.1
精神障害	200	54%	3pt	2601	13.0
知的障害	21	6%	0pt	63	3.0
重複障害	101	27%	5pt	497	4.9
その他	93	25%	1pt	570	6.1
種別不明	19	5%	▲1pt	52	2.7
合計	280	75%	▲1pt	10665	38.1

3 受験可否及び受験時の配慮状況について

◆受験可否

- ・前回比についてみると、2007調査以降の調査で初めて、すべての障害で受験可の率が減少し、未定が増加しました。なかでも発達・内部・精神の3つの障害について、受験可が5ポイント以上大幅に減りました。
- ・障害別でみると、視覚や知的の受験可が他の障害に比べて少ない状況は、依然として続いています。発達・内部と比較してみると、10ポイント程度の開きがみられます。

障害種別	受験可否					
	可			未定		
	数	率	前回比	数	率	前回比
視覚	175	47%	▲1pt	197	53%	1pt
聴覚	189	51%	▲2pt	183	49%	2pt
肢体	203	55%	▲3pt	169	45%	3pt
発達	202	54%	▲6pt	170	46%	6pt
内部	204	55%	▲5pt	168	45%	5pt
精神	172	46%	▲6pt	200	54%	6pt
知的	157	42%	▲4pt	215	58%	4pt



◆受験可否未定理由

可否未定理由 (複数回答可)	視覚障害			聴覚障害			肢体障害			発達障害 (新設)	
	回答数	率	前回比	回答数	率	前回比	回答数	率	前回比	回答数	率
事前協議後検討	182	49%	1pt	166	45%	3pt	160	43%	3pt	152	41%
統一見解なし	28	8%	0pt	27	7%	0pt	21	6%	0pt	31	8%
試験ノウハウがない	18	5%	0pt	13	3%	0pt	12	3%	0pt	9	1%
教職員側の態勢未整備	23	6%	1pt	19	5%	1pt	14	4%	1pt	10	3%
キャンパス設備の問題	19	5%	1pt	16	4%	1pt	11	3%	0pt	3	1%
合格しても受け入れられない	10	3%	1pt	7	2%	0pt	5	1%	0pt	3	1%
その他	9	2%	▲1pt	7	2%	▲1pt	6	2%	0pt	5	1%

- ・受験可否未定の大学にその理由を尋ねてみると、視覚・聴覚・肢体・発達障害ともに「事前協議後に対応を検討するから」がもっとも多くなっています。障害者差別解消法が施行されて5年経ちましたが、障害学生が「事前協議」で受験できるかどうか左右されるという実態は変わっていません。
- ・さらに可否未定理由の詳細に注目すると、たとえば、大学として統一した見解がまとまっていない問題や、試験の配慮に関するノウハウといった、大学が困難に感じている事柄が明確になっています。また「合格しても受け入れられない」のような事実上の受験不可ともいえる選択肢への回答が、視覚で10校、聴覚で7校、肢体で5校、発達で3校となっており、こうした姿勢が残っていることは非常に問題です。

どこがちがう？ 事前協議と事前相談

- ・事前協議は、大学が障害学生の状況を見て、入試や入学後にどこまで配慮できるかを検討したうえで、受験可否を判断します。
- ・事前相談は、大学が受験を認めたいうえで障害学生の様子を知るとともに、どのような配慮ができるかを検討するために行われます。

事前協議は障害学生の受験を認めるかどうかが決まっていなかった状況で行われますが、事前相談は受験を認めた上で実施されます。同じ話し合いの場ではありますが、受験が認められているのと、認められるかどうか分からないのでは、大きな違いです。

◆受験時の条件

- ・受験可否と受験時の条件の関係について見てみると、視覚・聴覚・肢体・発達のそれぞれの障害種別で、受験可と回答している大学の方が受験時の条件が決まっているという傾向が出ています。
- ・受験時条件の内容を見てみると、「事前相談」「診断書の提出」「障害者手帳コピーの提出」など受験時の配慮を決定するために必要と思われるものと、「入学後の補助者 大学は関与なし」、「入学後大学で配慮なし」など、受験時の配慮内容や入学後の障害学生の活動や配慮内容等を制約する選択肢を選ぶ大学に分けられます。
- ・視覚障害の受験時条件を見てみると「診断書の提出」が5ポイントと大きく増えています。「活字に対応可」、「試験（の形式）変更なし」のように、受験時の配慮に関して厳しい条件をつける大学が依然として減っていないことが懸念されます。こうした条件がある大学を受験する際には、注意する必要があります。
- ・聴覚障害の受験時条件を見てみると「診断書の提出」が3ポイント増えています。「誓約書の提出」、「入学後の補助者に大学が関与無し」といった厳しい条件を付ける大学が依然として残っています。本来入学後の情報保障を行うべき大学から、このような条件を出されることは、聴覚障害学生にとっては辛いことです。
- ・肢体障害の受験時条件については前回比で目立った変化は見られませんでした。「入試時自分で身辺処理」及び「入学後は自分で身辺処理」といった厳しい条件に回答する大学があります。通学や学内での生活、授業でのノートテイクなど、とくに人的支援が必要な場合には、こうした条件のある大学では、事前相談で自分に必要な支援についてきちんと大学に伝えることが大切です。

視覚障害	条件あり	条件なし	条件未定	合計
受験可	139	16	20	175
可否未定	53	13	131	197
合計	192	29	151	372

聴覚障害	条件あり	条件なし	条件未定	合計
受験可	141	22	26	189
可否未定	46	10	127	183
合計	187	32	153	372

肢体障害	条件あり	条件なし	条件未定	合計
受験可	148	21	34	203
可否未定	54	7	108	169
合計	202	28	142	372

発達障害	条件あり	条件なし	条件未定	合計
受験可	122	43	37	202
可否未定	39	9	122	170
合計	161	52	159	372

視覚障害 受験時の条件	回答数	率	前回比	視覚障害 受験時の条件	回答数	率	前回比
事前相談	183	49%	2pt	通常活字に対応可	4	1%	0pt
診断書の提出	103	28%	5pt	大学は事故責任なし	3	1%	0pt
障害者手帳コピーの提出	64	17%	2pt	誓約書の提出	3	1%	0pt
活字に対応可	19	5%	0pt	入学後の補助者 大学は関与なし	3	1%	0pt
試験変更なし	13	3%	0pt	入学後大学で配慮なし	1	0%	0pt
新設備設置・購入なし	9	2%	0pt	健康診断受診	0	0%	0pt
入学後は自力通学	6	2%	0pt	解答不可能な問題の減点	0	0%	0pt
入試時自分で歩行	5	1%	1pt	その他	27	7%	3pt

聴覚障害 受験時の条件	回答数	率	前回比	聴覚障害 受験時の条件	回答数	率	前回比
事前相談	178	48%	0pt	大学は事故責任なし	3	1%	0pt
診断書の提出	107	29%	3pt	入学後の補助者 大学は関与なし	3	1%	0pt
障害者手帳コピーの提出	67	18%	2pt	入学後大学で配慮なし	1	0%	▲1pt
試験変更なし	13	3%	▲1pt	解答不可能な問題の減点	0	0%	0pt
新設備設置・購入なし	9	2%	1pt	健康診断受診	0	0%	0pt
誓約書の提出	4	1%	▲1pt	その他	28	8%	3pt

肢体障害 受験時の条件	回答数	率	前回比	肢体障害 受験時の条件	回答数	率	前回比
事前相談	196	53%	2pt	誓約書の提出	5	1%	▲1pt
診断書の提出	112	30%	2pt	入学後の補助者 大学は関与なし	5	1%	▲1pt
障害者手帳コピーの提出	74	20%	2pt	大学は事故責任なし	3	1%	0pt
入試時自分で身辺処理	21	6%	0pt	入学後大学で配慮なし	2	1%	0pt
入学後は自分で身辺処理	16	4%	▲1pt	解答不可能な問題の減点	0	0%	0pt
試験変更なし	16	4%	0pt	健康診断受診	0	0%	0pt
新設備設置・購入なし	10	3%	0pt	その他	24	6%	2pt

発達障害 受験時の条件	回答数	率	前回比	肢体障害 受験時の条件	回答数	率	前回比
事前相談	155	42%	新規質問	大学は事故責任なし	1	0%	新規質問
診断書の提出	94	25%	新規質問	健康診断受診	0	0%	新規質問
障害者手帳コピーの提出	49	13%	新規質問	解答不可能な問題の減点	0	0%	新規質問
新設備設置・購入なし	6	2%	新規質問	通常活字に対応可	0	0%	新規質問
試験変更なし	5	1%	新規質問	入学後大学で配慮なし	0	0%	新規質問
入学後の補助者 大学は関与なし	3	1%	新規質問				
誓約書の提出	2	1%	新規質問	その他	15	4%	新規質問

・今回初めて調査した発達障害の受験時条件では「事前相談」が155校、「診断書の提出」が94校、「障害者手帳コピーの提出」が9校でした。他の障害と比較するとこれらの数はやや少ないです。

・「新たな設備設置・購入なし」、「試験変更なし」、「入学後の補助者 大学は関与なし」という厳しい条件をつける大学が見られるのは残念です。

※表中の障害者手帳とは、視覚・聴覚・肢体障害については「身体障害者手帳」、発達障害については「精神保健福祉手帳・療育手帳」を指します。

◆受験時の配慮

受験時の配慮	配慮あり	率	前回比
視覚障害	259	70%	0pt
聴覚障害	278	75%	▲5pt
肢体障害	273	73%	▲2pt
発達障害	229	62%	▲15pt
内部障害	287	77%	▲2pt

・本調査では初めて、発達障害の受験時配慮内容について、視覚障害などと同様の詳細な項目を設けました。その結果、具体的な配慮内容に回答のない大学は、受験時の配慮が「配慮なし」となります。その結果「配慮あり」が前回比が15ポイントと大幅に減りました。

視覚障害 受験	条件あり	条件なし	条件未定	合計
配慮あり	160	18	81	259
配慮なし	32	11	70	113
合計	192	29	151	372

・受験時条件の有無と配慮の有無に着目すると、視覚・聴覚・肢体・発達障害を通じて「受験時条件あり」で「受験時の配慮あり」の大学が最も多くなっています。

聴覚障害 受験	条件あり	条件なし	条件未定	合計
配慮あり	166	22	90	278
配慮なし	21	10	63	94
合計	187	32	153	372

・受験時に条件を付けずに、配慮を実施する大学の中には、いくつかの国公立をはじめ、配慮実績が十分にある大学が多く見られます。

肢体障害 受験	条件あり	条件なし	未定	合計
配慮あり	172	20	81	273
配慮なし	30	8	61	99
合計	202	28	142	372

・受験時の配慮を行うことは決めていても受験時の条件が未定の大学もあります。

・受験時に条件を付けてはいないが、配慮もない大学があります。医療系や音楽などの専門分野に特化した

大学が多く見られます。

- ・受験する際には受験可否だけに着目するのではなく、受験時の条件・配慮等を確認することが重要です。また、受験時に実力を発揮するためにも、入学後、学生生活を問題なく送れるようにするためにも大学側と事前相談を行うことが大切です。

発達障害 受験	条件あり	条件なし	未定	合計
配慮あり	128	29	72	229
配慮なし	33	23	87	143
合計	161	52	159	372

◆受験時の配慮（各障害種別共通）

- ・ここからは受験時の配慮の詳細についてみていきます。大学には受験生から希望があったときに対応可能な方法を、複数選択で回答いただいています。

試験時間	視覚	前回比	聴覚	前回比	肢体	前回比	発達(新規)
1.3倍	151	4pt	83	2pt	136	2pt	112
1.5倍	106	1pt	49	1pt	90	1pt	56
1.5倍以上	27	1pt	21	1pt	27	1pt	20
一般学生と同じ	162	2pt	228	2pt	197	2pt	174
その他	7	▲2pt	12	▲2pt	8	▲3pt	8
一般学生と同じ(時間延長なし)	87	▲1pt	185	1pt	126	1pt	106

- ・試験時間の配慮では、発達障害を含めて一定数の大学が時間延長の配慮を実施しています。
- ・「一般学生と同じ」という選択肢は、受験生が希望したときに一般学生と一緒に試験を受けることができるということです。しかし「一般学生と同じ(時間延長なし)」の選択肢のみを選ぶことで、実質的に延長を行わない大学もあり、その割合が視覚・聴覚・肢体障害ともに増えているのが気になります。

試験室	視覚	前回比	聴覚	前回比	肢体	前回比	発達(新規)
別室	231	1pt	208	5pt	223	1pt	188
保健室	23	0pt	24	1pt	29	1pt	20
明るすぎない試験室	54	2pt					51
ループアンテナの部屋			5	▲1pt			
1階の部屋					184	2pt	
洋式トイレに近接の部屋					185	2pt	111
一般学生と同室	122	3pt	172	3pt	134	1pt	135
その他	7	▲1pt	3	▲1pt	8	0pt	4
一般学生と同室(同室のみ)	25	0pt	67	▲2pt	20	▲1pt	31

- ・試験室の配慮では、発達を含めて別室での受験を認める大学が最も多くなっています。特に聴覚障害の別室の前回比が5ポイントと大きく増えています。
- ・一方、試験時間と同様、「一般学生と同室」のみを選び、実質的に他の配慮を行わない大学も一定数見られるのが気になります。
- ・今回初めて調査した発達で「明るすぎない試験室」が51校、洋式トイレに近接の部屋」が111校でした。今後の配慮の広がりが期待されます。

◆視覚障害学生への配慮

- ・視覚障害の出題および解答方法については、拡大文字が最も多く、前回比も2ポイント伸びています。時間延長1.3倍でかつ出題および拡大を実施する大学が2ポイント増えていることから、この2つが関連していると言えます。

視覚障害	出題方法	前回比	解答方法	前回比
点字	71	0pt	71	0pt
拡大文字	185	2pt	177	2pt
文字による解答			59	2pt
音訳	13	▲1pt		
対面朗読	33	1pt		
パソコン	27	0pt	38	0pt
口述			30	1pt
代筆			35	1pt
一般学生と同じ	141	1pt	141	2pt
その他	2	▲1pt	10	1pt
一般学生と同じ(他の配慮なし)	68	▲1pt	64	▲2pt

- ・点字・（マークシートの代わりに）文字による解答が拡大文字に続きますが、どれも拡大文字に比べて半数以下となっており、前回比もほとんど伸びていません。
- ・対面朗読による出題、代筆や口述による解答、パソコンによる出題・解答は数も少なく、前回比も変化がありません。機器の活用や人的支援により、障害学生が自分に合った受験方法を選択できるように、これらの配慮の広がりが期待されます。
- ・受験時に何らかの配慮を行う大学が259校ある中、出題・解答で「一般学生と同じ（他の配慮なし）」の大学が出題で64校、解答で68校とあります。前回比では減少しているものの、障害の特性上この部分で配慮されないことは致命的であり、改善が期待されます。

◆聴覚障害学生への配慮

- ・受験時に配慮ありで面接試験を実施する大学が272校ありました。配慮については、筆談による面接が最も多く、手話通訳者の同席・パソコン要約者の同席がこれに続きます。情報保障者の同席を認める大学が一定数あるのは評価できますが、筆談に比べて半数以下です。また、「一般学生と同じ（他の配慮なし）」が110校あるのは残念です。
- ・大学入学共通テストのリスニングテスト評価方法について見てみると「点数配慮」が36校で、前回比が2ポイント増えています。その一方「点数減点」が21校（前回比1ポイント増）あるのが実情です。
- ・自分の受けたい試験区分に面接試験やリスニング試験がある場合は、実力を正確に評価してもらうために、希望する配慮内容をしっかり伝えていくことが大切です。

面接試験	回答数	前回比
手話通訳者の同席	51	0pt
手書き要約筆記者の同席	35	0pt
パソコン要約筆記者の同席	32	1pt
筆談で面接	119	2pt
一般学生と同じ	166	3pt
その他	27	0pt
面接試験なし	14	▲1pt
一般学生と同じ （他の配慮なし）	110	1pt
大学入学共通テストのリスニングテスト 評価方法	回答数	前回比
点数配慮	36	2pt
点数減点	21	1pt
一般学生と同じ	59	0pt
その他	31	0pt

◆肢体障害学生への配慮

- ・肢体障害の出題および解答方法については、「拡大文字」が最も多く、前回比も2ポイント増えています。これは視覚障害と共通している点です。
- ・次いで「チェックによる解答」「代筆による解答」「パソコンによる解答」「口述による解答（意思伝達装置を含む）」と続きます。いずれも実施が少ないのが現状です。
- ・特にパソコンや意思伝達装置の活用、代筆者の同席等、自分に合った出題・解答方法を選択できるよう、配慮が広がることが望まれます。
- ・何らかの配慮を行う大学が273校ある中で、「一般学生と同じ（他の配慮なし）」が、前回比ではわずかに減っているものの、出題で141校、解答で109校に上ります。他の障害でも言えることですが、特に配慮を必要としない学生のみを受け入れるという姿勢の表れであり、こうした大学が支援を必要とする学生をまずは一人でも受け入れることで、変化していくことが期待されます。

肢体障害	出題方法	前回比	回答方法	前回比
チェックによる解答	/		71	2pt
パソコン			35	1pt
拡大文字	126	2pt	136	2pt
口述	/		27	0pt
代筆			47	1pt
一般学生と同じ	215	3pt	199	1pt
その他	5	▲1pt	5	▲2pt
一般学生と同じ （他の配慮なし）	141	▲2pt	109	▲1pt

◆発達障害学生への配慮

・今回初めて調査した発達障害では、出題・解答方法で「一般学生と同じ」のみを選び、実質的に配慮を行わない大学の数が多くなっています。受験・在籍者数が多いことから考えると、受験時の配慮の必要性そのものについて十分認知されていないといえます。

・拡大の出題・解答や、チェックによる解答はある程度実施されています。一方、パソコンの使用や補助者（代筆・口述）による解答は少ないのが現状です。

・面接時の配慮では「一般学生と同じ（他の配慮なし）」が136校と最も多くなっています。人とのコミュニケーションが苦手だったり、急な変化への対応が難しい発達障害学生にとって、面接時の配慮は本人の力を十分発揮するために必要で、この認識の広まりが急務と言えます。

・配慮内容をみると「質問の内容を文字で確認」、「質問の内容を理解しやすいように工夫」がともに48校、「個別の面接を実施」が35校と比較的実施されているようです。一方、パソコン要約筆記者や付き添い者の同席、「小論文などで代用」はまだ少ないのが現状です。

発達障害	面接試験
質問の内容を文字で確認	48
質問の内容を理解しやすいように工夫	48
個別の面接を実施	35
パソコン要約筆記者の同席	12
付き添い者の同席	10
小論文などで代用	6
一般学生と同じ	189
その他	10
面接試験なし	9
一般学生と同じ (他の配慮なし)	136

発達障害	出題方法	回答方法
文字による回答		32
チェックによる解答		52
パソコン	27	32
拡大文字	113	96
口述		13
代筆		22
一般学生と同じ	182	181
その他	4	4
一般学生と同じ（他の 配慮なし）	108	109

「大学における障害学生の受け入れ状況に関する調査」（大学受け入れ調査）はこれまで12回実施しました。ここで得られたデータは書籍『大学案内障害者版』として、多くの障害学生の方に利用していただきました。大学から寄せられた回答のすべてが、障害学生支援の歴史の発展そのものと言えます。

大学受け入れ調査の実施と書籍の発行を継続できるのは、回答くださる大学の方があつてこそです。ここに感謝の意を込めて、これまでの調査すべてに回答くださった19大学のお名前を掲載いたします。

帯広畜産大学	釧路公立大学	東北学院大学	獨協医科大学	慶應義塾大学
聖心女子大学	愛知教育大学	新潟経営大学	新潟産業大学	日本福祉大学
京都産業大学	同志社大学	龍谷大学	甲南女子大学	天理大学
広島大学	広島市立大学	広島女学院大学	中村学園大学	

参考：過去の各大学の回答有無は当センターホームページ「大学一覧」よりご覧いただけます。今後とも「大学受け入れ調査」および当センターの活動へのご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。